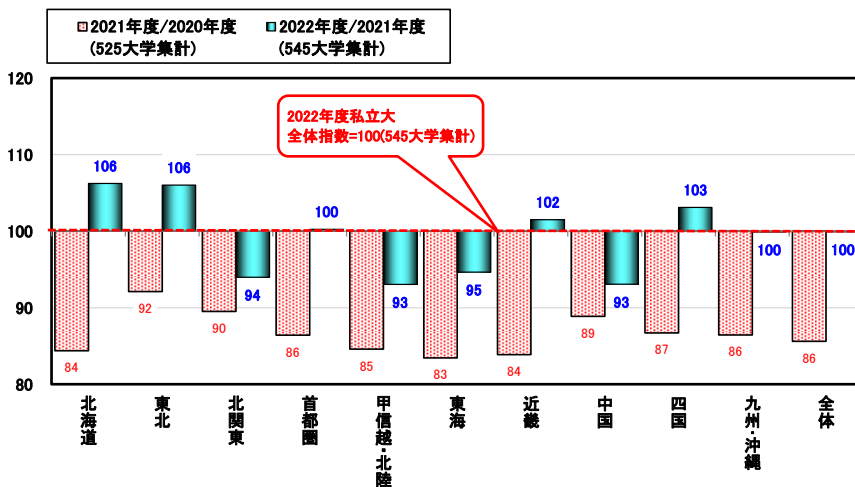


※本文中の( )内の数値は、志願者数の前年度対比指数を表します。

## ◎地区別志願状況・合格状況

### □3大都市圏では近畿は微増、首都圏は前年度並、東海はやや減少

〔私立大一般選抜 地区別志願状況〕



大学の所在地別の志願状況では、北海道(106)、東北(106)、四国(103)がやや増加しました。一方で、中国(93)、甲信越・北陸(93)、北関東(94)、東海(95)はやや減少しました。

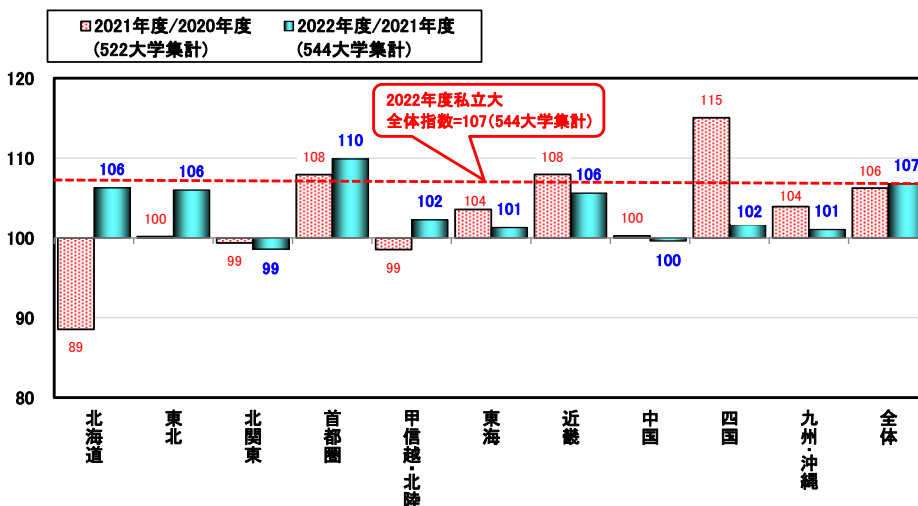
募集人員の多い大規模な総合大学が所在する3大都市圏の動向について見ていきます。近畿(102)は微増、首都圏(100)は前年度並でしたが、東海(95)は志願者数が確定

した中でそれぞれ2,000人を超える減少となっている愛知学院大、名古屋外国語大、常葉大、愛知淑徳大などが影響して地区全体でもやや減少となりました。コロナ禍の中ですが、前年度と比較して首都圏、関西圏の大学への流出が多くなったことが考えられます。

前年度は、コロナ禍で受験生の移動の流れが止まり、いずれの地区でも私立大志願者の減少傾向は同じように表れましたが、上記に述べた東海以外に北関東、甲信越・北陸、中国など新幹線沿線で首都圏や近畿の2大都市圏への交通の利便がいい地域の受験生の移動に復活の兆しが見えます。

### □北関東、中国を除く地区で増加

〔私立大一般選抜 地区別合格状況〕



左のグラフは、私立大一般選抜の地区別の延べ合格者数の前年度対比指数の過去2ヶ年を表したものです。

地区別の合格状況では、首都圏(110)のみが全国増加率を上回りました。その他の地区も北関東(99)、中国(100)を除き増加しました。

系統別と同じように、「合格者指数-志願者指数」の値を見ると、

首都圏(+9.7)、甲信越・北陸(+9.2)で大きく競争が緩和しました。一方で、四国(-1.4)は減少でわずかですが競争が厳しくなりました。